

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ぼのりこ		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 10日 ～ 2025年 12月 26日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20 (回答者数)	13
○従業者評価実施期間	2025年 11月 10日 ～ 2025年 12月 26日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7 (回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 29日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	自分の意思を伝える機会をもち、自分で決めて行動してもらう。	一日の中でプログラムを一つ予定しているが、参加は強制ではなく、子どもたちの意思を確認し、参加してもらっている。プログラムに参加しない場合は何をして過ごすかを伝えてもらい、自身で言ったことへの責任をもち、行動してもらう。	プログラムの内容のレパートリーを増やしていき、子どもたちの経験につなげていく。
2	集団の中で過ごすことでお友だち、職員とのやりとりを経験し、コミュニケーション力を身につけることができる。	集団活動以外でも子どもたち同士で遊ぶ機会をもち、できるだけ子ども同士でやりとりをするようにしている。職員の介入は最小限にしている。	集団活動でお友だちや職員とのやりとりを入れていく等、コミュニケーションを取りやすい環境を今後も整えていく。
3	定期的な面談や送迎時の会話等で一人一人に合った支援、対応を行っている。	定期的な面談では余裕をもった時間を取り、保護者の方に十分に話をしてもらえるようにしている。保護者の方がどこに問題を感じているのか等、十分に話をする中で見えてくるものがある。	送迎時に対面で話をする事で普段の子どもたちの様子、ご家庭の様子を知ることができるため、普段からの会話を大切にし、職員間での共有をしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子どもたちの普段の様子を伝えるツールが少ない。	現在、子どもたちの様子を伝えるものとして連絡帳、送迎時、定期面談、Instagramでしか情報提供ができていない。	各保護者のLINE等で子どもたち一人一人の普段の様子を写真で伝える等、現在しているものとは別の方法に取り組む必要がある。各誕生日カードに各自の普段の様子の写真を載せる等、工夫をしていく。
2	非常勤スタッフと情報共有をする時間が少ない。	職員がそろう機会が少なく、情報共有が十分でない。お迎えの少し前に出勤のため、話す時間があまりなく、支援が開始してしまっている。	お迎え時間より余裕をもって出勤してもらい、情報共有する時間を設ける、ミーティングの時間を作る等、工夫をしていく。
3	事業所外とのつながりの希薄さ。	地域とのつながりや児童館等、事業所以外とのつながりをなかなかもつことができていない。	長期休みのイベントで地域との交流を提案していく必要がある。